

## 8.18（月）喀痰吸引研修 ヤングケアラー動画を視聴した感想と考え

ヤングケアラーという言葉は最近耳にするようになり、CMでも取り扱うようになってきているので印象的です。動画を見て自分の進学や自分時間を割いて親を介護する現実を見て、私自身に置き換えて考えると、果たして私にはできるのだろうかと思いました。動画での息子さんはイライラすることもあるけど逃げずに向き合い、親のことをすきですと言えるのはすごいと思いました。介護される親の気持ちも子どもにこんなことをさせて申し訳ないという気持ちがすごく理解できます。山形県ではヤングケアラーについての対策がされているのかと知りたくなりました。

人には限界があって、それを超えると自衛のために暴力や自傷、発狂などいつものならない事をして守るものだと思っていて、問題はその限界を超える要因と矛先です。

虐待や暴言は他者だけでなく身内にもむき、傷つけてしまいます。傷つけたくて傷つける人もいるでしょうが、そんなつもりはなかったのにと後悔している人も大勢います。

今回の動画では現役高校生が母親の介護を強いられる生活に変化し、限界も見えていました。母が好き、助けてあげたい。そんな気持ちもありつつ、自分のやりたい事をしたい、自由になりたい気持ちの中で揺れていました。

こんな方々の為に税金を使用し、不自由な中で余裕が生まれることを作って欲しいです。

試験的に、議論中では遅いのです。今、限界を超えてしまう人が大勢います。

議会中に居眠りをして何千万と貰う人もいれば、未来が暗くなった若者、その家族が居ます。本当に必要な人に、手助けできる社会ができてほしいです。

今まで健康に生きてこられたことは普通ではなく、感謝しなければならないと改めて考えました。

"自分たちはすでに学校や施設で介護の技術を学んでいるが、普通の世帯だと急に何もわからない状態から介護を行わなければならない現状から、やはり地域の支援の手が不可欠になるのだろうと感じた。

自身の親や子供等の介護をしなければならなくなった立場の家族の方々をただ傍観するのではなく、しっかりとした知識を持った方々が手を差し伸べていくことができる環境を常日頃から整えていくことが大切なのだろうと思う。

実際に自分がその立場になった時はどうするのが正解なのかと思った。"

" ヤングケアラーに限らず、在宅で家族の介護を主となって実施していくことは介護者にとって身体的にも精神的にも相当な負担があるのだろうなと想像できます。ですが今回の動画を見て、学校にいけない、仕事にいけない、そもそも外に出ることもできないという社会的な面での負担が想像以上に大きいいと感じました。ことヤングケアラーに関しては、勉強は通信制の学校への転校が必要になり、今後の人生を設計するにあたり終わりの見えない介護を中心に据えて考えなければならない、子供たちの未来を狭めてしまっていると感じ

## 8.18 (月) 喀痰吸引研修 ヤングケアラー動画を視聴した感想と考え

ました。また、部活や、友人とのかかわり、放課後の遊んだり休日に遊びに行ったりといった学生として当たり前青春を送ることが出来ないことは勉強以上に大きな損失ではないかと個人的には思います。

少子化問題等で未来の担い手が少ない中、こういった子供たちを支援していくことの重要性を考えさせられる映像でした。"

ヤングケアラーが福祉業界の問題になっていることは知っていましたが、今回の動画を見て改めて大きな問題であると思いました。今回の動画の男の子は高校3年生。ちょうど家の子供たちと同じ年の子です。自分の子供たちは、介護などとは無縁な生活で、自分たちの好きなことを頑張っています。本来であれば、好きな事や遊びに一生懸命な年頃。そんな当たり前の自由がなくとも親の事が大切だから、自分を犠牲にしても介護をする。見ていて涙が止まらなくなりました。福祉業界で働いていると、いろいろなサービスや、介護者に対してのケアなどの知識がでてきますが、一般で、しかも子供となると全くその知識がなく「誰にも相談できない」「声のあげかたがわからない」というのが現状だと思います。ヤングケアラーが実際どのくらいいるのか？どこにいるのか？福祉業界だけではなく、地域や学校など様々な機関が連携し支援していければと思いました。

"ヤングケアラーはあまり詳しくわかっていませんでした。動画をみて、とても大変なことだと思いました。ケアしている年齢が若く、遊びにいたり、学校に行ったりと普通のこと出来ない、難しくなっている。気持ちをぶつけるところもない、相談の仕方もわからない。自分が自分ではなくなるのではないかと感じた。家族は大切だからこそ、見捨てるようなことはできない、でも 気持ちが追い付かない。「誰か助けて！」と叫びたくなるようでした。

また、在宅で介護をしている方も同じような感情になることがあるのではないかと考えた。老人だったらホームへの入所や短期利用のサービスを使って、少しの息抜きができるが、ヤングケアラーにもそういったサービスがあれば助かると思った。ヤングケアラーの方達が情報をいつでも交換できると、前向きに物事を考えられるようにならないかと感じた。"

ヤングケアラーは正直聞いたことがありませんでした。若い世代が祖父母、親に介護をしている。介護と聞くとどうしても高齢者の介護を思い浮かべてしまいます。動画でも終わるの見えない介護、終わってしまったら死を意味すること考えさせられることがたくさんありました。衰えていく姿を目の当たりにする現実には心が痛みます。家族や親せきなど頼れる方が誰もいない現状で介護していなければいけない。家族のストレスも大きいものだと思います。まして10代20代は遊びたい、自由な時間が欲しい、反対にお願いしなければ生きていけない。もう少しヤングケアラーを支援する取り組みが全国的に増えればいいのかと思います。

## 8.18 (月) 喀痰吸引研修 ヤングケアラー動画を視聴した感想と考え

まずは自分の年齢と息子の年齢が動画の 2 人と同じで重ね合わせて見ていました。自分が病気になってしまったら彼の自由を奪ってしまう申し訳なさを感じました。小学校の頃ですが、友人がヤングケアラーでした。両親が聴覚障害があり、授業参観中や後の保護者の懇親会や先生と保護者の面談や買い物などに彼がすべて付き添い手話通訳をしていました。皆が帰った後も親の都合に合わせて付き添いが必要でした。それでも、一緒に遊んで、子供ながらに彼の両親にも良くしてもらいました。周りの理解もあり、困っているような様子はありませんでした。今思えば大変だったと思います。最近でいえば、自分たち親がコロナになってしまったときに長男に兄弟の食事やお風呂をお願いしたのを覚えています。たった、1~2 日間のことでしたがとても感謝したのを覚えています。ヤングケアラーの制度については今後各行政で制度を整える必須の課題だと思います。不登校や引きこもりなどの原因の一つになっています。自分たちの知らないところで困っている子供たちが多くいるのだと思うと心が痛みます。現状を知っていて、子育て支援には力を入れているが、子供たちのケアにはまだまだ不十分な自治体の制度に不満です。時々、ママ友でもヤングケアラーの話にはなりますが自分たちにはどうしようなく無力さを感じます。

"動画内で母親が「なんで無視するの？」息子が面倒くさそうに対応する所をみて、責任感人一倍強い反面、余裕がなく少しでも場を離れる空間、環境が必要と思いました。家族だからこそ距離感というのは繊細な部分であり、感情で広く狭くと左右されると思っています。いつだって追いつめられる可能性があり、介護者の思考能力が低下し大事になってしまいます。大事の前に相談やアドバイスといった過程があれば、介護者側も頼る場所、人を認識ができると思います。

どうすれば支援の手が届くのか個々の援助では限界があり、ヤングケアラー、老老介護といった過程内での援助の必要性をもっと発信して、市や国の援助を強めてほしいと思います。"

子供の経管栄養、や吸引の動画の時も思いましたが、それを支える家族が精神が追い込まれる様子や葛藤などを見て、自分の場合だったら全部は厳しいなと思いました。支える側ならまだ頑張れるが自分がそういうのをされる立場になったら終わりにするかな、とも。自分子供いませんが、甥っ子たちはいるので世話にならないよう、さっさと施設に入るなどを決めているので。もう少し吸引や経管の必要な人の家族が付きっ切りにならなくても大丈夫になるような技術や制度があってもいいのかなと思いました。

ヤングケアラーについては初めてお聞きしました。なんとなくそういった事がどこかであるのが想像はしていたのですが、本当にあるとは少しびっくりしたのが正直なところです。ビデオを見て、やはり色々複雑な気持ちが生じています。両方（介護側・介護受ける側）の気持ちにわかるつもりであり、それぞれが幸せでいたい気持ちというか不幸であってほしくない気持ちがあると思うのでお互いに後悔しないようにとる行動が難しいのが凄く伝わ

## 8.18（月）喀痰吸引研修 ヤングケアラー動画を視聴した感想と考え

ってます。自分の感情をコントロール事が難しいのはわかるつもりではありますが、時間で解決というのも理解を得られた。難病の病気っていつ起こるかがわからないので周りの人を大事にするというメッセージも伝わっています。

"この動画を観て、胸が締めつけられるような思いに襲われます。ヤングケアラーとして、難病の母親を一人で支える 18 歳の息子の姿は、尊敬の念と同時に、深い哀しみを呼び起こします。彼の献身は愛情に満ちていますが、夜間や休日も介護に追われ、友人との時間も持たず、孤独と責任に押しつぶされそうな日々を送っていることを想像するだけで、胸が痛み、涙がこぼれそうになりました。

私は、同じ年頃の息子を持つ親として、この問題を他人事とは思えません。もし自分が病気になり、息子に介護を任せることになったら――「ごめんね」と謝りたくなる気持ち、「迷惑をかけたくない」「いっそ死んでしまった方が…」と考えてしまう苦しみを、想像するだけで辛くなります。それでも、息子がそばにいてくれることに「ありがとう」と心から思うだろうという気持ちも、痛いほど理解できます。

この複雑な感情は、親子の絆の深さと、介護の現実の重さを物語っていると感じます。ヤングケアラーの問題は、家族だけで抱えるものではなく、社会全体で支え、孤立させない仕組みが必要だと、改めて強く思います。"

"インスタグラムのリール動画で切り取ったものを見たことがあり、気になっていたので今回見ることができて良かったです。ヤングケアラーの子たちへの支援や補助が確立されることを願うばかりです。わたし自身今回の動画のような経験はないし、両親も今は元気なので、普通であることがいかに幸せなのかを痛感しました。

血のつながりのない人への介護の仕事をしているだけで、感情のコントロールは難しくイライラすることが多々あるのに、これが血のつながった一緒に住む家族だったら？と考えるだけで、息子さんの気持ちは想像できます。手を出さずになんとか自分の中で感情をコントロールし、それでもお世話をしなくてはいけない、一人になりたくても学校に通いたくてもできない、という不安や悩みや葛藤…計り知れない精神状態だと思います。

母親目線では、子どもがいる私自身が病気になり、子どもから介護をしてもらう状況になったらと考えると母として生活の手伝いを子どもに全て託せるだろうか？と悩んでしまいました。子供に好きなことをやらせてあげたい、自由に生きてほしい、と思う一方で頼まないと自分自身が生きてはいけないという現実、死の恐怖、不安…。これもまた計り知れない葛藤があるんだろうなと思いました。

それでも親子だから、話をしなきゃいけない時はいつか来て、お互いの気持ちは言わなければ伝わらないこともお互い分かっている、この親子が決めた道はどうなったのか、どこへ向かって行くのか、気になりました。"

ヤングケアラーという言葉を知り高校生や中学生くらいの年齢で親の介護をしてい

## 8.18 (月) 喀痰吸引研修 ヤングケアラー動画を視聴した感想と考え

る子がいるのを知って衝撃だった。介護をその年齢からしなければいけないのは精神的にとっても辛いし部活や勉強等の好きなことをほとんどできないのはその子の成長のためにも良くない事だと思った。自分の親から暴言や暴力がとんでくるのは中高正の年齢だと大人になってから親の介護をして暴言や暴力をうけるよりショックなのではないかと思った。なかなか難しいことなのはわかっているが早く国や県で支援できるような対策を立てて支援して行ってほしい。支援することで少しでも中高生の負担を減らし動画の事件のような事が起こるようなことが無いような世の中にして行ってほしいと思った。

"この動画は以前に観たことがあり、家族の介護により 10 代・20 代の若者が自分の生活もままならない状態に陥っている事に強い衝撃を受けました。

誰しもが【最後まで自宅で生活をしたい】という願望があるのは当然だと思います。10 代の子供が 1 人で自宅での介護を担わなければならない現状であれば、ヘルパーや看護の支援時間をもっと増やす必要があるし、夜間や休日の支援も絶対になくてはならないはずなのに、どうして日本はこのような制度なのか理解に苦しみます。少子化をどうにかしなければというわりに、苦しんでいる若い世代の事はなにも考えてくれないのはどうしてなのか。日本に生まれる命が増えたらそれでいいというだけの考えがどれだけの人を苦しめているのか。

家族間での事件や虐待が起きてから、慌てて制度を作る事がなんの解決策になるんでしょう。

ヤングケアラーたちは、学校にもろくに行けず、周りの友だちとも遊べないので孤立する。自分の夢も、行きたい学校も、したい事もあきらめなくてはならない。日中も夜間も介護をし精神的にも肉体的にも負担になっている。介護をしている側への救済にもっともっと力を入れてほしいです。

要介護者側としても、自分の子どもや孫に介護をさせて悪いな・・・と精神的にとっても苦しめていると思いました。"

テレビでヤングケアラーの話を知ったことはありましたが、動画を見て現実味が湧きました。自分が高校生の時は、親の介護をするなんてことは考えたこともなく、ただただ自分のことだけで精一杯でした。動画の方のように大変な思いで介護をしながらも親の事が大好きだと言えるのは、やはりこれまでの関係性によるものだと思います。自分に重ねて考えると自分が今介護が必要な状態となった時に子供たちが介護してくれるとは到底思えないので、日頃の関係性を真剣に見直していきたいと思いました。ヤングケアラーに対しては本当に継続した支援が必要だと思うし、周囲の人達の気づきや気遣いが重要だと感じました。今一度周りを見回してみたいと思いました。

## 8.18 (月) 喀痰吸引研修 ヤングケアラー動画を視聴した感想と考え

"親はこんな体にならなければ・・・と辛い思いもあるだろうし、こんな病気になつてごめんねと申し訳ないという気持ちがあると思います。息子は病気を治してあげたいという思いがあり、病気の進行と共に負担が増えていくにも関わらず、それでもお母さんが大好きですと言えるところが素晴らしいです。救いの手が届いていないという現状で、相談窓口がいかに重要か考えなければならず、誰にも相談出来ず、いたましい事件が起きてしまわない様、ヤングケアラー自身を手助しなければならぬと動画を観て感じました。

ヤングケアラーではないですが、私の母も3年前まで17年間今勤めている施設にお世話になっていました。親の思いも凄く分かるし、子供の気持ちも理解することが出来ます。この動画から、両者の互いにを思いやる気持ちがとても切なく感じました。"

"この動画を拝見させていただき、ヤングケアラーという言葉や実態について初めて知ることが出来ました。自身が母親で子供もいるため、障害を持つ子供に親がかかわる実態など見聞きしたりしていましたが、逆の可能性もあるのだと考えさせられました。高校生の息子さんが通信制の高校へ編入し母親の介護をしている姿は大変だったと思います。ヘルパーの支援はあるようでしたがケアの負担が大きく息子さんの時間や活動への制限があり、精神面での負担が大きいように感じました。父親が居ない事、祖父母も頼れる環境にないのか名前が上がらなかったが、息子さんが頼れる人が居るのか。頼れる場所があるのか。相談できる人が居るのか。そこに対しての支援が必要と思いました。それでも母親のことは大好きと迷いなく言える息子さんに感動しましたが、だからこそ難しい問題なんだと思います。気持ちだけでは乗り越えられない問題でもあると感じるため、行政の援助が必要だと感じました。今回はこういった研修で私自身がヤングケアラーがいるんだと『知る』ことができたのが良かったです。子供事態に自覚がない介護者もいる可能性もある事、認知されず、支援が必要であることすら知られていない事が問題でもあるため、啓発も進めていくべきだと思いました。虐待は起こそうと思ってするものではなく、こうした小さな精神的や経済的などのストレスが集まって起きてしまうのではないかと思います。

自身もなかなかうまくいかない事などに対してストレスが溜まることもあり、そういったときは丁寧なケアが出来ない事もあります。反対に、時間や余裕があるとご利用者や子供に対して、丁寧にかかわる事が出来るなと感じます。そういった余裕が持てるように経済的や心理的な支援がもっと必要になってくるのだと感じました。"

動画を拝聴してヤングケアラーにとっても興味があったのでとても勉強になりました。自分の周りでは子供が親や身内を介護している状況は聞いたことなかったのですが、実際に自分よりも若い子供が介護をしている状況がある事を世間に伝えていかないと感じました。特に中学生では26人に一人、高校生では33人に一人が自分の親や身内を介護しているという現状に衝撃を受けました。自分が学生時代は家事などは手伝っていました

## 8.18 (月) 喀痰吸引研修 ヤングケアラー動画を視聴した感想と考え

が、ヤングケアラーの子供たちは家事全般、自分のこと親や介護者の分まで生活を担わなくては行けない事なので意味合いが違うことに痛感しました。今介護の仕事をしていますが、もしも、自分が動画の中の子供たちの様に今よりも若い時に親や身内の介護をしなければならぬ状況になったら、動画の子供たちの様に優しく寄り添えることはできないなあと感じました。ヤングケアラーの子たちもやりたい事や、叶えたい事、切実な願いや思いがあるのにそれが叶えられないまま自分が命を落としてしまう、あるいは介護者に手を出してしまうのも現状の一つです。なかなか一筋縄ではいかない難しい課題ですが、ヤングケアラーの子たちだけではなく、未来を担う子供たちを支援していかないといけないと動画を拝聴して感じました。動画の中の子供たちの言動、行動が私も介護の仕事をしていてしてしまっているなあと自分に置き換えてみる事が出来ました。介護者だって自分だってなりたくてなったわけじゃないからそんな風には言いたくないけれども、体が言うことが効かないとか、本来の自分ではなく変わってしまった自分を受け入れられない、あるいは周りが受け入れてくれないもどかしさで強く言ってしまうのかなと感じました。最後の所でヤングケアラーの高校生の子がお母さんのことを大好きと言っている所は、どんな姿になっても自分にとっては「母親」なので言っているような気がしました。自分は経験しているわけじゃないからそのような子たちの為に来る事って微力に思ってしまうのですが、自分なりにできる事、話を聞く、寄り添ってあげるそんな風に考えられる様になりたいです。介護する人、介護される人両者の幸せの形とは何かを考えさせられる内容でした

"率直に感じたのは、なぜ支援の手が行き届かないのかという事です。子供に介護をしてもらわないと生きられない、親の介護をしなければ親は生きていけない・・・双方の気持ちを感じられて辛く感じてしまいました。ヘルパーの方の「子供らしく育てて欲しい。」との言葉が刺さりました。自分がもしあのお母さんと同じような立場になったとしたら・・・と考えると行き場のない気持ちでいっぱいです。

子供らしい生活を送る事が困難な状況にいる子供達がいる事に対し、大人がしっかりと向き合い支援の手を差し伸べていくような働きかけをしていかなければならないと思います。言葉にするのは簡単ですが、実際問題としてどこからどのようにはじめていけばよいものなのでしょう・・・。

高校生の息子さんが、当たり前のように経管栄養を流すケアをしている所が印象的でした。

"

今回の動画の ALS の患者親子は、自分と息子の年齢変とほぼ変わらず、もし自分だったらと置き換えて考えてしまいました。日々進行していく病気とともに子供にかかる介護の負担。子供にしか頼ることしかできないという、申し訳ないという気持ち。子どもには好きなことをしてほしいがかなわない現実、胸が苦しくなりました。患者と家族両方の支援が必要だと感じました。ヤングケアラーに手を差し伸べる支援はもちろんのこと、その情報が家

## 8.18 (月) 喀痰吸引研修 ヤングケアラー動画を視聴した感想と考え

族に届くような仕組みが整ってほしいと感じました。

この動画は以前少し見たことがありました。自分の周りで親など家族の支援をしている若い方がいないのと、自分が住んでいる市でケアラー支援を行っているのかどうか知らず、ヤングケアラーについて考えたことはありませんでした。しかし10代という年齢はまだ勉強もしなきゃいけない、部活や遊び等したいことがたくさんあるなかで親の介護に時間を費やすことは精神的にも辛いことと、虐待等に繋がる恐れもあるため、全国的にももっと支援を広げて行っていかなければいけないのではと感じました。現にこの動画をみて、自分の時間を介護に費やし、将来の選択も親の事を考えており、幅広い将来の選択肢も制限されていたのではと感じました。自分だったらまだ遊びたい・勉強したい10代でも親の介護ができるという自信はなかったと思います。動画の中でもありましたが、支援があることやその支援はどこでどのように活用できるのか知っておけば虐待や家族を殺してしまうという事件は少なくなるといえます。障害や病気があれば病院へ入院する、施設へ入所するという選択肢だけでなく、大切な家族の側にいれる在宅で生活するためにどんな支援が必要か、その考えや方法を県・市で状況を共有し、どのような支援が受けられるのか情報を提供していただき、その家族だけでなく、みんなで考え支えて1番良い方法を選択できるようになってほしいと感じました。

"動画の中で、母親が「こういうふうになったおかげで、(息子が)優しくなった、本当の姿が見られた。」と言っていました。以前も自分自身何処かで聞いたような感じがしました。何処で聞いたのか思い出せませんが・・・。

家族だからこそ言える事もあり、家族だからこそ苛立つ事もありますし、本人には申し訳無いと思いますが、互いの関係を考え直すきっかけの機会なのかなと。引き換えにしたものは大き過ぎますけどね。

家族の人数が多い家だからこそ、在宅介護できているお宅もありましたが、

家族の人数が多くても、不仲で介護したくないというお宅もあり・・・

書き始めるにあたって人数が多ければ何とかなるのかな、と書こうかとも思いましたが、そういうわけでもないなと思い直しました。今のこの状態を認めたくないといった方もあったし。

また現在の自分の周りでもヤングではないですが、自分より年齢が下の家族の介護をしている人たちが何人かいます。こちらからその事に関してどうなの？と話をするのもバツが悪いですし、彼らも自分からは話したりしないので、障害がある御家族がいらっしゃるという事しか分からないのですが。

年齢的に亡くなるのは順当にいけば年上だから、障害者の人が残ってしまうのでどうするんだろう？と時々考えてしまいます。"

ヤングケアラーという言葉はテレビで見たことがあるくらいで詳しくは知りませんでした。

## 8.18 (月) 喀痰吸引研修 ヤングケアラー動画を視聴した感想と考え

動画では高校生の頃から介護をしていて精神的にも肉体的にも自分には想像できないほど過酷であることが見て取れました。ALS の方の動画を視聴し親なんだからもう少し優しく接してあげれば良いのに、と他人事で簡単に思う反面、自分がそのこどもの立場になったら同じようにイライラして優しくは出来ず逃げ出したいと思うと思いますし同じ境遇でない友人にも相談は難しく、孤独と感じてしまうと思います。こどもにとっては親を助けてあげたいと思う反面、自身も自由になりたいと若いときはとくに感じますし国のどういった支援があるのかもわからない、親にとってもこどもしか頼れず情けないと感じる場面が多くあり親子だからこそのとても難しい問題であると思いました。

ヤングケアラーという言葉が根付いて来たのは最近になってからだが、昔から義務教育の受けている子供が家庭事情から必然的に介護をしなければならない状況というのは沢山あったと思う。とはいえ、そういったヤングケアラーに対する支援というものはまだまだ発展途上なうえ、介護からの疲労、ストレスから虐待または殺害に至ってしまうケースは少なくない。年齢相応の自分らしく生活できないことの苦しさ、それは介護される親もまた、自分の子供に頼るしかないという苦しさが動画を通して痛いほど伝わってきた。神戸市のヤングケアラーの支援を手本にして、介護福祉士の人材確保など課題は様々あるとは思いますが、こういった取り組みがやがて全国にも広がり、介護する側もされる側も少しでも心のゆとりがもてるようになればと望むばかりです。

"ヤングケアラーという言葉は何度か聞いた事がありましたが、言葉のみであり知りませんでした。介護の為に学校も通信制の学校に変え、母親が中心の生活。母親が申し訳ないと思っている気持ちもわかりますが、一番多感な時で友達と多くの経験を積むときに介護をしなければならない事が、とても残念でしょうがありません。疲れた時イライラしつつ母親に当たってしまう事があったのが、少しほっとしています。ヘルパーさんが、息子さんが大変そう。わかりますか。息子さんの負担の軽減を考えなければと話された事もほっとしました。

昔ヤングケアラーだった吉田さんは、母親に周囲に話すなど言われ誰も助けてくれなかったと話されていたが、どんなに大変だったかと思います。短い言葉で話されていましたが、しっかりお母さんを支えられていた事に頭が下がります。そして今度は自分がヤングケアラーの子達を支援しようとされています。高校で 33 人、中学で 26 人のヤングケアラーがいるとの事。神戸市の取り組みが全国に広がってほしいと思います。道内でも少しずつ進んでいる様ですが、少しでも早くヤングケアラーの子供が少なくなればと思いました。"

ヤングケアラーという言葉はポスターやテレビなどで取り上げられているのを見たことがありましたが深く考える機会がありませんでした。ヤングケアラーという問題には様々な視点があることが分かりました。疾患を患ってしまった本人が一番つらいし、周りに知られたくないという気持ちもあり自分の子供に頼ることしかできないというお話がありました。不自由になっていく自分の姿を周りに見られたくないという考えはもしそう自分がなって

## 8.18（月）喀痰吸引研修 ヤングケアラー動画を視聴した感想と考え

しまったらと考えるその気持ちはあると思います。しかし、支援する側からしたら周りから孤立することによって支える家族の負担はどんどん大きくなっていき、支援を受けられなければどんどん追い詰められていく。様々な取り組みができていますが、支援する私たちはどう関わっていけばいいのか、「家族の世話は当たり前」という考え方ではなく、周りがその問題について認識し支えていくことが大切だということが分かりました。

ヤングケアラー、ニュースで取り上げられた際初めて知りました。若年層が介護している問題・事象は社会福祉のフィールドだけでは語られる問題では無いのだと、改めて感じました。とりわけ、ケアの当事者たち、ケアをする人・される人・その周りの人の視点からすれば、家族の繋がりがあまりにも強く、そもそも社会的サポートが必要な事態だと、自覚していない可能性が大いにあります。近しい人から言われるまま介護し、時には暴言・暴力もあり、どんどん孤立し、相談したくても出来ない、他の家族と違うと本人が気づくように、周りの相談しやすい環境が必要だと思いました。心理的ケアもヤングケアラーとして認知されるべきだと考えました。ケアの為学生時代が奪われてしまうもっと社会的支援を行政で行ってもらいたいです。

ヤングケアラーについてはテレビ等で知ってはいましたが、実際の様子を目の当たりにして、一刻も早い支援が必要だと感じました。介護保険が始まる前、施設に入所させることは姥捨て山に捨てられることと同じ様に考えられ、世間の目も含めて家族が介護することが当たり前で、介護しなければならない家族の支援はほとんどなかったように感じたことを思い出しました。ヤングケアラーについて世の中が注目し始めたことで、今後支援が広がっていくとは思いますが、支援や制度が確立するまでの間も、何かできることはないか考えさせられました。精神的にも肉体的にも疲弊し、ストレス、孤独を抱えた状況を想像しただけで苦しくなります。親のつらい気持ちも理解できるからなお、自分が我慢してしまう子供の気持ちが…。様々な方面からの支援が早急に確立することを願います。